



都市工学部門の外国人客員研究員が肥前浜宿とチェンマイの 国際共同比較研究で国際会議ベストプレゼンテーション賞を受賞！

【概要】

JSPS 外国人特別研究員として来日し、理工学部都市工学部門に所属している Nattasit Srinurak 氏（ナッタシット・スリーヌラク氏／タイ・チェンマイ大学・講師）が、国際会議 CITIES 2021 でベストプレゼンテーション賞を受賞しました。工学系研究科博士後期課程学生の Janjira Sukwai さんと三島 伸雄 教授が共著者で、発表内容は世界遺産選定を目指すチェンマイ歴史地区の防災問題について佐賀県鹿島市肥前浜宿と比較したもので、佐賀大学の地域貢献から発展した国際共同研究の成果が高く評価されました。

【本文】

JSPS 外国人特別研究員として来日し、理工学部都市工学部門三島伸雄研究室に所属している Nattasit Srinurak 氏（ナッタシット・スリーヌラク氏／タイ・チェンマイ大学・講師）が、2021年10月20-21日に開催された国際会議・第15回 CITIES2021で、ベスト・プレゼンテーション賞を受賞しました。

発表内容は、「安全な都市に向けた減災マネジメントとしての都市遺産：歴史的都市の減災マネジメントを向上させるための伝統的建造物群保存地区に着目した実践と政策の比較」
“Urban heritage as a key DRM for safer city: Comparing practical and policy focusing on ‘Denkenchiku’ ideology to enhance CBDRM in historic city”です。国際会議 CITIES は、インドネシアで第4位にランクされる大学 Institut Teknologi Sepuluh Nopember (ITS)が主催する都市計画関連の国際会議です。今回の研究発表者は30名で、その中の3名が受賞しました。

Nattasit 氏は、チェンマイ歴史地区の防災計画をテーマにして2017年9月に佐賀大学大学院工学系研究科博士後期課程（主指導教員：三島 伸雄 教授）で博士号を取得した後、チェンマイ大学社会科学研究所の講師として世界遺産を目指すチェンマイ歴史地区の研究チームに入り、特にアーバンデザインの観点から災害危機管理計画に取り組んできました。その取り組みが高く評価され、日本学術振興会（JSPS）外国人特別研究員に採択され、2020年11月に佐賀大学外国人客員研究員として再来日して、三島教授との共同研究を継続しています。また、三島教授は、科学研究費国際共同研究加速化基金(B)に「世界遺産候補チェンマイ歴史地区における人的災害要因に対する危機管理分析基盤の構築」をテーマに採択され、チェンマイ大学との国際共同研究を継続しています。これは、初めての世界遺産選定を目指すタイ国に対する我が国の貢献としても意義深いものです。

一方で Nattasit 氏は、再来日される以前の2018年度に住友財団研究助成に「日本の伝統建造物群保存地区から学ぶ災害リスクの軽減」をテーマに採択され、三島教授が長年まちづくりに取り組んでいる佐賀県鹿島市肥前浜宿の防災計画との比較を行ってきていました。今回は、その研究成果を発表したものです。

このように本受賞は、単なる国際共同研究の成果が評価されただけでなく、佐賀県鹿島市の町並み保存の取り組みや、佐賀大学が地域連携プロジェクト・鹿島プログラムとして取り組んでいる地域貢献が国際共同研究に発展していることを含めて評価されたものであり、佐賀県全体として誇れるものと考えられます。この成果をここに公表し、地域の多くの方々と喜びを分かち合いたいと思います。

